



神戸大学

兵庫県内の医療過疎地域の高校生を対象とした 医療系人材育成促進事業（継続事業）

神戸大学大学院医学研究科 石田 達郎

I. 背景・目的

超高齢化社会を迎えた我国では、都市部に比べて地方の疲弊が著しく、地元産業の衰退と相まってインフラの整備維持すら困難となりつつある。特に、医師不足・偏在による医療崩壊は地域社会の深刻な問題となっている。兵庫県では多面的な医師不足対策が講じられているものの決定的な解決策はない。医師・医療従事者の地域への定着には、地元出身者が医学部や医療系学部を目指すのが最も自然で有効であるが、とくに医学部受験生は都市部の進学校卒業生に多く、医療従事者向けの教育コンテンツの利用も地方の公立高校生にとってはハードルが高い。結果として、地域では最初から医療従事者を目指すことを諦める者も多い。

医療過疎地域の県立高校では、地域の医療を支える人材を育成するために「医療系人材養成プログラム」が実施されている。医療系職種を目指す若者を増やすために地元病院の医療現場を訪れ、講演や見学を通して業務に触れ、倫理観、コミュニケーション能力などを学んでいる。

我々は、2019年よりこのプログラムと連携し、兵庫県病院局・兵庫県教育委員会の協力をえて「兵庫県内の医療過疎地域の高校生を対象とした医療系人材育成促進事業」を行なっている。高校生の段階で神戸大学医学部・医学部附属病院の医療・教育現場や研究室などを見学・体験することによって、医療・医学に対する高い興味と関心を喚起し、強い志を持って医療系職種を目指す人材を育成するために、種々の企画を行った。

II. 方法と対象

本事業は、県内医療過疎地域の県立高校の合同プログラムと連携して経年的に実施しているが、本年度はこれまでの事業を発展させ、以下の活動を企画した。

1. 地域での活動（場所：各県立高校）

神戸大学医学部の教員が医師不足地域の高校を訪れ、高校生に対して医学・医療に関する啓蒙活動を行った。

- ・講演会
- ・進路相談会

2. 医療系ディベート（場所：各県立高校）

社会的に議論となっている医療に関するテーマを与え、生徒は賛成側と反対側に分かれて根拠に基づいた議論を行う。どちらの側がより合理的で説得力があったかを生徒自身のジャッジにより判定する。

3. サイエンスツアー（場所：神戸大学医学部）

各地域の県立高校より選ばれた生徒を神戸大学医学部に受け入れ、見学・体験ツアーを行う。とくに、一般の医療機関では体験できないような先端医療、医学教育・研究などを中心に触れ、大学や大学病院の特色を生かすことを配慮して教育コンテンツを提供する。

1-1. 医学部教育の現場の視察

医学部学生が受ける講義・実習の現場見学
解剖学教室、病理学教室、法医学教室訪問

1-2. 医学部における臨床技能教育課程の視察

診察用シミュレーターを用いた循環器系診察や心臓超音波検査の体験

1-3. 医学研究現場の視察

循環器内科研究室において、培養血管内皮細胞を用いた二次元血管新生過程の観察、動物から採取した血液を用いた血糖および血中コレステロールの測定などを体験

1-4. レポート提出

自らが行った実験について、背景・目的、方法、結果、考察から結論を導き出し、レポートとして提出させる。

1-5. 医学部学生との交流会

医学部在学中の学生と高校生との交流・情報交換の場を設け、高校生に対して個人的アドバイスなどを交えながら、医学部生の日常生活や勉学・クラブ活動などを紹介する機会を提供

III. 2021年度の事業成果

1. 地域での活動

1-1. 講演会と探求調査（於：豊岡高校、洲本高校）

《内容》

- ・「医療系を目指すみなさんへ」
医療系職種の魅力や医学医療の実際を紹介
- ・「あなたもできる救命処置」
循環器・呼吸器・脳神経系の解剖整理を概説し、生命維持のしくみから心肺停止の際の蘇生法までを概説
- ・「メタボとフレイル」
栄養の摂り過ぎや不足による病気の成り立ちを概説し、超高齢化社会を迎えた地域社会における問題点を学び、生徒自身が医療従事者になった場合に、メタボとフレイルの予防のために何ができるかについて、生徒独自のアイデアをレポート提出させた
- ・「新型コロナウイルス感染拡大によって学んだこと」
新型コロナウイルス感染拡大を防ぐ対策と同時に、地域の経済を活性化させる対策などについて、生徒独自のアイデアをレポート提出させた

1-2. 医療系ディベート（於：豊岡高校、洲本高校）

1) テーマを提示

「新型コロナウイルスに対するワクチン接種を義務化することについて、賛成か反対か」

2) 生徒による調査と準備

高校の先生による指導（負担大きい）のもと、生徒自らが科学的あるいは倫理的な見地から調査を行った。

生徒は、自らの希望に関わらず、否定側 vs. 肯定側、ジャッジ、司会に分けられた。

3) ティベート対戦本番（保護者も聴講）

複数チームによる対抗戦形式で実施

肯定側立論→否定側質疑→否定側立論→肯定側質疑→否定側反駁→肯定側反駁→否定側最終弁論→肯定側最終弁論

肯定側、否定側ともに、科学的・合理的根拠に基づいて自らの主張を述べるとともに、相手側の意見にも反論することにより、熱く活発な議論が行われた。

4) 判定（生徒ジャッジによる）

5) 講評と総括（神戸大学教員）

※注意

- ・本年度はコロナ禍による生徒受け入れ制限のため、事業の縮小や延期を余儀なくされた。とくにサイエンスツアーは実施できていない。
- ・一部の企画は2022年2-3月に施行予定であり、本ポスター作成時点では実施できていない。また、延期した企画は引き続き（4月以降を含めて）実施機会を検討中である。

V. 総括と今後の展望

- ・本年度は、コロナ禍の影響で事業を縮小せざるをえず、とくに事業の目玉であるサイエンスツアーは未だ実施機会を検討中である。しかし、代替企画として行った医療系ディベートでは議論が白熱し、参加した高校生と学校からの反応は極めて良好であった。
- ・本事業は今年度も参加者と関係者から高い評価を得たのみならず、医師・医療系職種を目指す高校生の裾野の拡大に貢献した。
- ・来年度は、コロナ感染状況に臨機応変に対応し、オンラインコンテンツや現地での活動を拡大する予定である。

VI. 謝辞

本事業に対し助成頂いた「地域連携事業」関係者に深く感謝申し上げます。